

## 30日 水曜

ルカ



24:28 彼らは目的の村に近づいたが、イエスはまだ先へ行きそうなお様子であった。  
24:29 それで、彼らが、「いっしょにお泊まりください。そろそろ夕刻になりますし、日もおおかた傾きましたから。」と言って無理に願ったので、イエスは彼らといっしょに泊まるために中にはいられた。  
24:30 彼らとともに食卓に着かれると、イエスはパンを取って祝福し、裂いて彼らに渡された。  
24:31 それで、彼らの目が開かれ、イエスだとわかった。するとイエスは、彼らには見えなくなった。  
24:32 そこでふたりは話し合った。「道々お話しになっている間も、聖書を説明して下さった間も、私たちの心はうちに燃えていたではないか。」  
24:33 すぐさまふたりは立って、エルサレムに戻ってみると、十一使徒とその仲間が集まって、  
24:34 「ほんとうに主はよみがえって、シモンにお姿を現わされた。」と言っていた。  
24:35 彼らも、道であったいろいろなことや、パンを裂かれたときにイエスだとわかった次第を話した。  
24:36 これらのことを話している間に、イエスご自身が彼らの真中に立たれた。  
24:37 彼らは驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。  
24:38 すると、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを起こすのですか。」  
24:39 わたしの手やわたしの足を見なさい。

まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。霊ならこんな肉や骨はありません。わたしは持っています。」

24:40 [本節欠如]

24:41 それでも、彼らは、うれしさのあまりまだ信じられず、不思議がっているので、イエスは、「ここに何か食べ物がありますか。」と言われた。

24:42 それで、焼いた魚を一切れ差し上げると、

24:43 イエスは、彼らの前で、それを取って召し上がった。

なぜ彼らがイエス様を見ながら分らなかったのかは不明です。しかしパンを取って祝福する行為はイエス様の様子を思い出させると思われますから、最後の晩餐のような霊的な行為に聖霊様が働かれたのでしょう。人に善き気づきを与えるのは聖霊ですが、聖霊に働いていただけるような行為をするのは人間です。

どんなことも聖霊によらなければ力も恵もありませんから、聖霊を求めるためにできるだけのことをしましょう。

イエス様がよみがえったことは、弟子たちでさえ信じられなかったほどの驚きでした。ですから彼らの信仰は心の内に始まった主観や想像によるのではなく、事実によっているのです。祈りに答えて下さった事実や、聖徒の証しの事実を受け取りましょう。

何よりも自分を救いによって変えて下さった事実を感謝して受け止めましょう。そして復活の信仰を堅く持ち、死に勝利した主の力によって、どんな時にも希望を持ち続けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

